中学校国語　類題　力だめし3　出題の趣旨と解答・解説

課題1　文章の内容や表現をとらえ、自分の考えを明確に書く。

類題

中学校 国語　力だめし3（書く）

一、次の文を読んで後の問いに答えなさい。

冬、家庭で最も歓迎される料理は、なべ料理であろう。煮たて、焼きたてが食べられるからである。

なべ料理では、決して煮ぎましを食べるということはない。クツクツと出来たての料理を食べることが、なによりの楽しみである。だから、なべ料理ほど新鮮さの感じられる料理はない。最初から最後まで、湯気から煮て食べるところまで、ことごとく自分で工夫し、加減をしてやるのであるから、なにもかもが生きているというわけである。材料は生きている。料理する者は緊張している。そして、出来たてのものを食べるというのだから、そこにはすきがないのである。それだけになんということなく嬉しい。そして楽しみのもてる料理といえよう。

しかし、材料が野菜、野菜という語彙が入った上での話である。入れるものがくたびれていたのでは、所詮のものはできない。これは、なべ料理にかぎらぬ話であるが、念のため申し添えておく。

家庭でやるなべ料理は、原料はこれとこれだけと、決っているわけではない。前の晩にもらった所詮ものだとか、買い置きの※1漬物だとか、※2ぞんざいだとか、こんにゃくだとか、あるいは豆腐を使おうと、なんでも※3混淆的に※4煮して、勝手にどんなふうにでもやれるのである。「なべ料理」のことを、東京では「寄せなべ」というが、※1上方では「楽しみなべ」ともいっている。なぜ、「楽しみなべ」というかといえば、（　　）

「楽しみなべ」という名称は、実によくあてはまっている。しかし、「寄せなべ」というのは、なんだか雑駁すぎて感じのよい名前ではないと思う。「なべ料理」は泡にもいった通り、材料がいろいろあるし、それを煮る。煮り方にもなかなか工夫がいるのである。この点を注意しないで、※2ぞんざいに煮ると、いかにも※3雑駁の寄せ集めみたいになってしまう。

（『鍋料理の話』　北大路　魯山人　より一部抜粋　青空文庫より）

＊1　上方（かみがた）　関西地方のこと
＊2　ぞんざい　いいかげん
＊3　雑駁（ざつぱく）　こみとなるもの。

（1）　（　　）の部分に文を入れます。前後の文章をよく読み文脈をとらえ、あなたがふさわしいと思う文を考え、書きなさい。

出題の趣旨

・読み取った内容を条件に合った表現に直して書くことができるか。
・文章に書かれている内容をもとに、自分の考えを書くことができるか。

【解答例】
（原文）たいの頭があったり、かまぼこがあったり、鴨があったり、いろいろな材料がちらちら目について、大皿にもられたありさまが、はなやかで、あれを食べよう、これを食べようと思いめぐらして楽しみだからである。

【解答について】
※原文は参考とする。
※前後の文脈から考えて、いろいろな材料が使えるところに楽しみがあるという文意であれば正解とする。単に自分が楽しいというだけでは不正解とする。

学習指導ツール
「ワークブック」
グループA
①小作文シリーズ
喜怒哀楽（No.001,002）
④お気に入りシリーズ
（No.016～025）

課題2　目的や意図に応じて、資料を工夫して表現する。

「1」本文を参考に「年以外（春・夏・秋）家庭で最も食べられる料理」について、次の条件に従って書きなさい。
①百五十字以上二百字以内とすること。
②太線のマスに入る最初の1字は、あなたが選んだ季節を入れ、書き出しに続けて書くこと。